



# 協会ニュース

## 第24号

平成19年1月30日発行

編集発行人／服部 桂 〒150-0031 東京都渋谷区桜丘町15-17 (日本基礎技術株式会社内) TEL (03) 3476-5721 FAX (03) 5489-7821  
[ホームページURL] <http://www7.ocn.ne.jp/~rta/>

## 年頭にあたって

岩盤削孔技術協会会長  
加納 研之助



当協会が大口径岩盤削孔研究会として発足したのは、平成元年11月でした。その後、名称を岩盤削孔技術協会と変え、研究会が発足した平成元年から数えて、今年は19周年になります。その間、厳しい経済状況下にあっても、会員皆様のご努力によって当協会も着々と実績をあげております。ひとえに会員皆様の協力のおかげと感謝いたしております。

本年、国は重点分野として、「国際競争力の強化」、「地域の活性化・都市再生」、「国民の安全・安心の確保」を掲げており、経済発展の基礎になる社会資本の整備―港湾・空港・道路―を進めるとしています。

さらに地震・風水害などの大規模災害に対し、再発防止の観点から「防災・減災等による安全社会の確立」を重視するとしています。

ただいま、長い不況を脱し明るさを取り戻したとされる日本経済の中にあつて、建設関係は工事量の減少と単価の低下の傾向が厳しく困難な状況が続いておりますが、特に複雑な地形地質、空間的環境制約の多い狭隘な国土のわが国において、安全で信頼できる様々な社会基盤の整備を支えている「大口径岩盤削孔技術」が果たすべき役割は、引き続き大きなものがあります。

「知恵」と「工夫」を出し合い、「技術力」、「経済力」に優れた企業を目指して努力し、ここで一番踏ん張って、この困難を乗り切れば必ずや明るい未来の光が見えてくるはずです。

協会もできるだけ経費を切りつめて、会員皆さんと協力して、地道ではありますが、実のある仕事に集中していくつもりです。

積算資料の提供については、(社)日本建設機械化協会殿における国土交通省・関係機関および関係業界の方々による「大口径岩盤削孔技術委員会」で、オーガ掘削工法・ケーシング回転掘削工法・ロータリー掘削工法・パーカッ

ション掘削工法の4工法について、(社)日本建設機械化協会殿により「大口径岩盤削孔工法の積算」を発刊していただいております。

岩盤分類の研究については、現在の岩盤削孔のための岩盤分類は、主に一軸圧縮強度を指標にしておりますが、硬岩と判定される岩盤の領域が非常に広く、所定の掘削時間で掘削できない場合が多々あります。

このような状況に鑑み、学識経験者および発注官庁の専門の方々による「削孔を対象とした岩盤分類検討委員会」(委員長・西松裕・東大名誉教授)で統一された岩盤分類について検討を行い、「削孔を対象とした岩盤分類報告書」のとりまとめを行い、発刊いたしました。

大口径岩盤削孔工法・施工機械技術資料の発刊については、オーガ掘削工法、ロータリー掘削工法、パーカッション掘削工法、ケーシング回転掘削工法の概要、掘削工法・機械一覧の技術資料のとりまとめを行い、平成19年度版、第5版を発刊いたします。

リーダ式ケーシング回転掘削工法積算資料の作成については、適用範囲、工法の概要、リーダ式ケーシング回転掘削工法の標準積算、参考資料を日歩掛り方式でとりまとめを行い、平成18年度版を発刊いたしました。

岩盤削孔技術協会カタログについては、大口径岩盤削孔工法、工法分類と適用地質(オーガ掘削、ロータリー掘削、パーカッション掘削、ケーシング回転掘削)、施工実績のとりまとめを行い、発刊いたしました。

会員施工会社施工実績調査表(平成17.4～平成18.3)についてはオーガ掘削工法、ロータリー掘削工法、パーカッション掘削工法、ケーシング回転掘削工法の施工実績と分析を行って発刊いたしました。

岩盤削孔技術協会工法紹介ビデオについては、より多くの技術者に削孔技術の正しい知識を習得していただくため、大地の特性、岩盤と削孔特性、様々な削孔技術、これからの土木を内容としたビデオ(岩盤を掘る19分)の制作を行い、発刊いたしました。

岩盤削孔技術協会ホームページについては、協会の情報および会員会社の情報を、国内はもとより海外にも提供しております。また協会のホームページリンクによって、会員会社のホームページを瞬時に参照することもできます。

アクロバットリーダーの利用により、協会ニュースの「工法・新製品紹介」、「施工事例紹介」などの多量の情報を得ることもできます。

社会環境の厳しい中にあつて、協会は堅実に力強く一歩一歩歩んでいます。今年こそは、みんなで良い年にしましょう。

## 委員会活動報告

1. 運営委員会 2回(継続)  
平成18年8月25日～平成18年12月1日  
・ 理事会・総会報告  
・ リーダ式ケーシング回転掘削工法日歩掛り分科会報告  
・ リーダ式ケーシング回転掘削工法日歩掛り発刊報告  
・ ホームページ分科会報告

- ・ 協会ニュース編集分科会報告
  - ・ 大口径岩盤削孔工法・施工機械技術資料改訂の報告
  - ・ カッタービット損耗量および歩掛り調査報告
  - ・ 理事会開催案内・議題(案)
2. リーダ式回転掘削工法日歩掛り分科会 2回(継続)  
平成18年8月25日～平成18年12月1日  
・ リーダ式回転掘削工法積算資料  
平成18年度版発刊前審議

- ・ リーダ式回転掘削工法日歩掛り積算資料発刊報告
- 3. ホームページ分科会  
平成18年8月25日～平成18年12月1日
  - ・ 内容の審議
  - ・ ホームページ改訂箇所報告
- 4. 協会ニュース編集分科会
  - ・ 協会ニュース23号報告
  - ・ 協会ニュース掲載項目の決定
  - ・ 協会ニュース執筆担当者の決定
- 5. 工法・施工機械技術資料改訂分科会 1回  
平成18年12月1日
  - ・ 工法・施工機械技術資料の審議
- 6. (社)日本建設機械化協会技術委員会参加 1回  
ケーシング回転掘削工法の諸雑費について
  - ・ カッタービット損耗量調査

平成18年度版リーダ式回転掘削工法積算資料の発刊  
(平成18年9月15日)

**広報活動**

- (1) 協会ニュース 1回 第23号  
(平成18年8月30日)
- (2) ホームページの改訂 1回  
(平成18年10月21日)
- (3) 広告 1回 (平成18年7月15日)  
「基礎工」平成18年7月 特集号  
(港湾・空港施設における基礎工の新技术)

**対外活動**

- (1) 国土交通省への報告 1回  
(平成18年10月31日)  
カッタービット損耗量調査

**成果品**

**工法・新製品紹介**

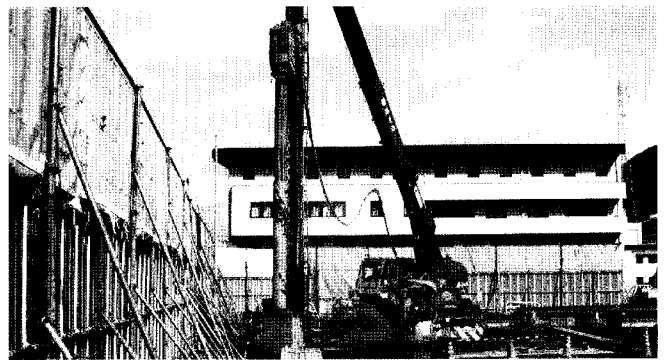
**DASH工法  
(防音対策型ダウンザホール工法)**

NETIS登録番号KK-050099  
特許番号第3425390号

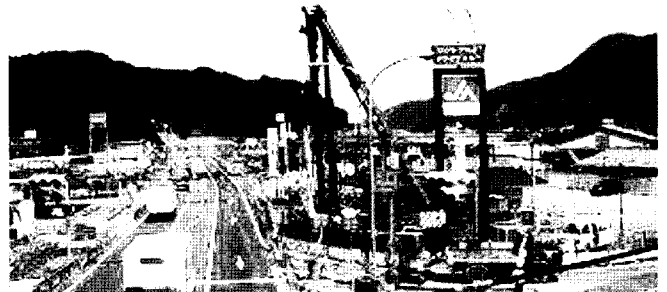
D:Down the hole  
A:Antinoise  
S:System  
H:Hammer

従来型のダウンザホールハンマはロッド内部が空洞でありハンマ駆動時の発生音は凄まじく、その騒音レベルは30m地点で90～100dBです。本工法はこのハンマロッド空隙部に特殊吸音材を充填又は装備し、共鳴、金属音がなくなり、打撃音も8～15dB程度軽減効果があります。

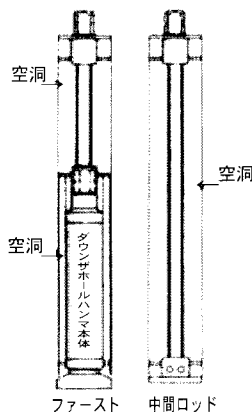
従来使用が問題となった市街地、住宅街、また、夜間工事にも威力を発揮します。



公共病院増築工事での施工



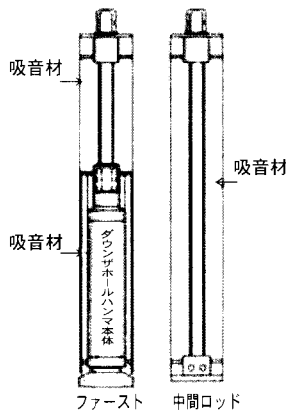
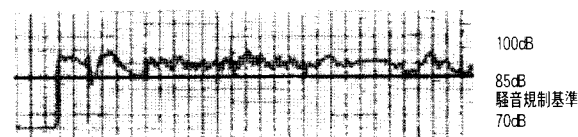
国道9号線一本柳交差点での施工



**従来型**

ハンマ打撃による金属音が空洞内で共鳴するため、騒音が大きくなります。

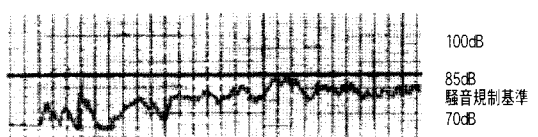
●騒音測定結果  
30m地点(SD-12)  
100～91dB



**防音型**

空洞部に吸音材を充填することで防音効果が大きくなり、ハンマ打撃による金属音・共鳴音は小さく静かになります。

●騒音測定結果  
30m地点(SD-12防音型)  
83～76dB



# User Interview

ライト工業(株) 機械部 部長 青木 登氏

今回は、全国で斜面防災や基礎・地盤改良などの分野で幅広く活躍されているライト工業(株)の機械部・青木部長を訪ねてインタビューを行いました。

記者: 貴社で施工されている、岩盤削孔工法の概要をお聞かせください。

青木: 当社は、ダウンザホールハンマ工法に分類されるパワーサブ工法を中心に営業展開しています。

記者: パワーサブ工法の特長をお聞かせください。

青木: パワーサブ工法は、クレーンに減速機・ハンマ・ビットを吊し、簡易的な反力装置で減速機を固定し、削孔する工法です。削孔位置への移動・固定が素早く行えるため、施工能率に優れていることがセールスポイントです。また、吊下げ重量が軽量なため、クレーンから離れた距離での施工も可能です。このようなセールスポイントを生かし、現道から離れ、仮設道路が必要な場所での抑止杭施工や、杭の施工を行いながら架設が必要な栈橋の支持杭施工などで評価を頂いています。

記者: 岩盤削孔技術には、機械の要素が占める割合が大きいと思いますが、機械担当のお立場から見た、杭工事についてお聞かせいただけますか？

青木: 機械トラブルの発生を未然に防ぐと言う、工事に直結した業務から、オペレータの経験や勘と言ったノウハウを如何に数値化して、機械に生かして

いくかなどの開発的な業務まで、幅広い対応が求められるのが、杭工事であると思っています。

杭工事は、機械要素の割合が大きいので、トラブルのほとんどを担当しなくてはならないため、大変な反面、機械屋の本領が発揮でき、やりがいも大きいです。



青木 登氏

記者: 岩盤削孔技術も含め、機械担当から見た今後の「展望」「夢」をお聞かせください。

青木: 今後、機械開発に求められる事項は、現在と同様で、如何に施工能力の高い機械を提供することであると思います。特に機械施工では、機械損料が高額であるが故に、施工トラブルによる工事遅延は、利益に直結します。そのため、「施工トラブルの少ない機械」言い換えれば、「施工前にはどうしても不明な要素に左右されないタフな機械開発」が、開発の目標となってきます。そのうち、特に施工トラブルの多くを占める地盤に対して、オールマイティな掘削機械というもの具体的な目標と言えます。また、都市部の施工で特に要求される、低粉塵・低振動・低騒音と言った環境負荷低減型の機械開発の需要も増えてきつつあるので、これらの開発も進めて行きたいと思っています。

記者: お忙しいところありがとうございます。今後の貴社のますますのご活躍をお祈りいたします。

(ライト工業(株) 横田 弘)

## 官公庁関係情報

### 1. 平成19年度予算財務省原案 防・減災に重点配分。集中豪雨対策費14%増

内示された平成19年度予算の財務省原案では、安全・安心の確保に向けた防災・減災分野に予算が重点配分された。集中豪雨などによる床上浸水・土石流被害などの緊急軽減策に1948億円(前年度比14.2%増)、ゼロメートル地帯などの緊急津波・高潮対策に331億円(同19.2%増)、密集市街地対策や住宅・建築物耐震改修、防災公園などに832億円(同4.7%増)。

床上浸水や土石流対策で、洪水や高潮で50戸以上が流出・全壊の恐れがあるような地区で、河道掘削や築堤など緊急的な改修工事をおおむね5年間で実施。ゼロメートル地帯への対応で「海岸耐震対策緊急事業」を創設。地域中枢機能が集積している海岸を対象に、5年程度をかけた堤防や護岸の耐震対策を講じる。

密集市街地の防災性向上で、基盤整備と建築規制の緩和を併せて行う「密集市街地リノベーション事業」(仮称)を創設、特に危険な市街地での安全性確保を図る。

自治体が施行する第2種市街地再開発事業の地区面積要件を「5000平方メートル以上」から「2000平方メートル以上」に引き下げ、再開発事業による対応も促進。

老朽化が進んだ大規模河川管理施設の改築を行う「大規模河川管理施設機能確保事業」や、河川の上流域で緊急的に浸水被害対策を行うための「洪水流下阻害部緊急解消事業」の創設。

### 2. 国交省分 国際物流対応へ、道路網整備を強化

平成19年度の国土交通省関係予算の財務省原案では、行政経費を含めた総額は6兆0558億円(前年度当初予算比3%減)。重点分野には、▽国際競争力の強化▽地域の活性化・都市再生▽国民の安全・安心の確保▽快適で豊かな国民生活の実現を掲げ、限られた予算で最大限の効果を上げる。

公共事業関係費の内訳は、一般公共事業費が5兆3893億円(同3%減)、災害復旧などが534億円(同額)。経済成長戦略推進施策には1090億円。

重点分野をみると、新規では、地域自立・活性化総合支援制度の創設に360億円。アクセス改善や街づくり推進による観光地の魅力向上に381億円。景観形成総合支援事業を創設し、良好な景観づくりを推進。密集市街地対策に92億円。「密集市街地リノベーション事業」を創設し、基盤整備などを総合的に進める。

国際競争力強化の面では、国際物流に対応した道路網の戦略的整備として1788億円。空港や港湾とインターチェンジなどを結ぶ幹線道路ネットワークの構築を推進。羽田空港の再拡張事業やその関連事業には980億円。3大都市圏の環状道路整備には2088億円。スーパー中核港湾プロジェクトに526億円。

地域活性化に向けて、都市・地域の総合交通戦略の推進に685億円。

地域交通を総合的に支援する制度を創設するほか、地方鉄道の利便性向上を進める。新幹線の整備に706億円。

バリアフリー新法の施行などを踏まえ2525億円。浸水被害対策の強化に992億円。避難地・防災拠点の整備などに467億円。

建設業の活力回復に9億円。入札契約制度の改革などに取り組む。建設業の海外進出への支援も実施。

(財務省発表資料より)

岩盤削孔工事施工事例の紹介

倉敷基地作業トンネル等工事ズリ投入孔工事  
(全周回転オールケーシング併用リバース工法による深度140mまでの岩盤削孔工事)

本工事は、液化プロパンを水封式地下岩盤貯槽方式により、地下に貯蔵するためのトンネルおよび地下タンク建設工事の一部として、掘削土砂を運搬するための、ズリ投入孔工事である。

1. 工事概要:

ズリ投入孔工事として、削孔径φ2100mm、削孔深度GL-140mの掘削を実施したので、下記に紹介する。

施工法は、全周回転オールケーシング掘削工法と岩盤用リバースサーキュレーションドリル工法を併用する二段掘り方式とした。

2. 発注者:

独立行政法人 石油天然ガス・金属鉱物資源機構

3. 元請施工会社:

倉敷基地作業トンネル等工事 鹿島・清水・アイサワ共同企業体

4. 施工会社:

ケミカルグラウト株式会社 丸泰土木株式会社

5. 地盤と施工法の概要:

地盤は、盛土層および堆積土(細砂層、シルト層および玉石混り礫層)であり、最深部は風化花崗岩および花崗岩(漸移部)である。

GL-58.0mまで、全周回転オールケーシング掘削工法(φ2,500mm)で施工した。それ以深では岩盤用ロービットを取り付けたリバースサーキュレーションドリル(φ2,100mm)とエアリフトによりGL-140.0mまで

削孔した。

削孔完了後、φ1,600mmの鋼管を設置し、鋼管の外周をセメントミルクにて充填した。

6. 施工機械の選定と施工結果

崩壊性地盤で用いた全周回転オールケーシング掘削機は、掘削口径がφ2600mmまで対応可能な高回転トルクのRT-260H型(日本車

軸製)を選定した。花崗岩の削孔に用いたリバースサーキュレーションドリル機は、後工程での鋼管(φ1600mm)の建込みを考慮して高い鉛直精度(1/500以上)が要求されたため、削孔時にロッドの押し引き力を油圧で微調整できるWIRTH製(ドイツ)の933(H)型を選定した。

その結果、鉛直精度が約1/806という非常に高い精度で削孔する事ができ、後工程の鋼管の建込みをスムーズに行う事が出来た。

(丸泰土木(株) 山下 啓明)



RCD施工風景

MY TOWN

見どころ食べ処

岐阜編

景色を食す岐阜

岐阜の歴史的舞台としても有名な金華山。織田信長がその名を天下に知らしめる最初の一步を記したところと言えるでしょう。

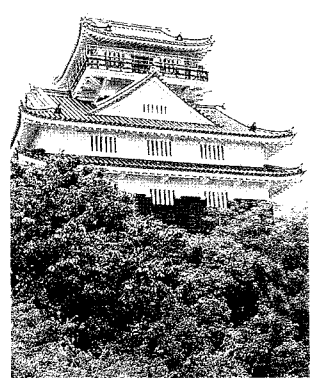
難攻不落と言われた岐阜城は、眼下に悠々たる長良川を従え、木々が城を囲み孤高の城のようにその頂上で陽の光を受けてそびえています。「天下布武」、信長がこの言葉を使い始めたのは、永禄10年、美濃国を手中に収めた頃です。「天下に武を布(し)く」。武力で天下の統治者たらんとした意味ではないかと思われまます。この金華山のふもと中竹屋町に和食の「布武」があります。かつては造り酒屋だった建物を半年かけて再生したお店です。心和む空間では、大阪で修行を積んだ板長が岐阜の食材を最大限に生かした和食を提供してくれています。信長が天下を武でおさめようとしたが、「布武」は料理で客の心をおさめてくれる…そんなお店です。食後は場移してゆったり



和食の「布武」



世界文化遺産「白川郷」



金華山「岐阜城」

とお茶とお菓子を戴くことができます。客に対する亭主の気遣いを感じることができます。

孤高の城金華山岐阜城のふもとで、悠々とその歴史を眺めてきた長良川は、岐阜の人々の安らぎの場でもあります。この長良川を一望しながらの食事は、岐阜県人にとっての何よ

りの至福の時ではないでしょうか。長良川を一望できる店として、肉料理を提供している老舗「潜龍」があります。本館からは美しい日本庭園が、新館からは長良川が個室にてゆったりと眺めることができます。また、長良橋を右岸に沿って西へ向かうと、古い町屋が続いています。こちらでは、老舗の「十八楼」をはじめ、「文化や」などで、長良川を望みながら食事をとることができます。食事の後は、同じ通りの「川原町屋」でゆったりと時間をすごすのもお勧めです。古い町並み、川原町の中心なお店で、蔵の2階のゆったりとしたソファから眺める岐阜城はまた違った趣です。かつて和紙問屋だった町屋を改修した和風カフェで、無農薬の豆を使い、濃厚ななかにさわやかな酸味があるコーヒーを提供してくれます。甘味メニューも充実していて、女性にも人気です。

御嶽山に乗鞍岳、そして世界遺産の白川郷や古い町並みの高山など岐阜にはあります。自然に囲まれた岐阜の地で、豊

かな食材で育まれた郷土料理をすばらしい景色と共に堪能してみたいかがでしょう。

1955年、ユネスコの世界文化遺産に登録された白川郷・荻町合掌集落。今でも114棟の合掌家屋が現存し、集落を歩けば昔懐かしい風景に出会うことができます。

茅葺屋根を持つ合掌家屋は通気性と保温性に優れ、雪が積もりにくいのが特徴。まさに、雪深い気候風土の中で、自然と共生して暮らしてきた先人の知恵が詰まった合理的な構造。合掌家屋の維持保存のため、30～40年に1回行われる葺き替えは、大勢の人手を必要とする大仕事。そのため、労力を近隣の人と貸し借りするシステム「結」（ゆい）がこの地域に昔から根付いています。現在も助け合いの精神が脈々と受け継がれ、世界遺産を共同で支えています。

(丸門建設(株) 門崎 朱実)



## 私の履歴書

丸門建設(株) 代表取締役社長 門崎 孝弘

今回は事務局がご多忙な門崎社長を本社にお伺いしてインタビューしました。



門崎 孝弘 (もんざきたかひろ)  
昭和33年4月14日 岐阜県生まれ  
昭和57年 丸門建設(株)入社  
平成18年 丸門建設株式会社  
代表取締役社長に就任  
平成18年 丸門運輸株式会社  
代表取締役社長に就任

### ■郷里・幼年時代・学生時代

市街の中央にそびえる金華山山頂に織田信長の居城「岐阜城」。

その山すそを1300年の歴史を誇る伝統漁法「鵜飼」で名高い清流「長良川」が洗う岐阜市で初代社長の長男として生まれた。

夏は長良川での水泳と魚とり、春と秋は金華山で山登りで遊んだ。

小学生では、家計の一助になる早朝の新聞配達を。

クラブ活動は、中学では走り高跳び。高校では、バレーボール。

### ■社会に出て

大学を卒業して、昭和57年に丸門建設(株)に入社。

入社以来、技術部門と営業部門で、「ドーナツオーガ工法」

で「岩盤削孔工事」を、「トップドライブケーシングメカニズム工法」で、「障害物削孔除去工事」を、「ロダム工法」で、「大径岩盤削孔工事」を430現場で施工、技術指導や問題解決に当った。

このうち、杭径φ1000～φ1500mmの「大径岩盤削孔工事」が90現場。

杭本数1000本～2600本の「大規模工事」が10現場で、貴重な現場での施工体験・工事に即応できる技術力・工事を進捗させる現場力・知恵を出し合う問題解決手法を学ぶ事が出来た。

岐阜県国道41号線洞門新設落石防止工事で「ドーナツオーガ工法」で、砂礫層中に点在する径500～1000mmの巨礫を削孔径800mm、深さ13mで削孔、48本の抑止杭を施工した。

兵庫県震災復旧ケーソン破碎岸壁工事で、「ドーナツオーガ工法」で、ケーソン(鉄筋コンクリート)を削孔径1200mm、深さ21m、削孔本数176本で破碎し、この工法の長所を実証した。

### ■会社の歴史・経営理念

誕生：昭和40年、丸門運輸(株)設立。運送業からの出発。転機：昭和48年、丸門建設(株)設立。工事を設けて、杭打ち工事業開始。セメントミルク工法の開発。

発展：昭和49年、ドーナツオーガ工法機の導入。

昭和55年、SMDドーナツオーガ工法機の導入。

昭和59年、SDAドーナツオーガ工法機の導入。

昭和60年、ケーシングロックオーガ併用工法(トップドライブケーシングメカニズム工法。場所打杭、障害物破碎、＜鉄筋コンクリート、捨石、基礎ぐい＞パイル引抜き、産業廃棄物置換)の開発。

昭和63年、ロダム(全旋回)工法機の導入。

平成4年、ダウンザホールハンマ工法機の導入。

経営理念：社訓は「健康」、「正直」、「勤」の3つ。

誠実な人柄と仕事への情熱で、出入りの大手建設会社・パイルメーカー・パイル販売店の信頼を得て社業を発展させ、大手基礎工事会社へ育て上げた。(丸門建設(株)46名、丸門運輸(株)30名)。

### ■信条趣味

信条は、「約束をやぶらない」、「自分の力量以上のことはやらない」。

姓名学による鑑定では、「宿命の運・才能・人柄・生涯運・姓と名の調和」が大吉で、強固な意思力・優れた判断力・誠実温厚な人柄・指導者運を持ち、晩年に名誉・財力のすべてがえられる人とか。

趣味は「ゴルフ」。「写真」。「映画鑑賞」。

ゴルフのハンデは5。飛距離は260～280ヤード。最高は300ヤード。イーグルも達成。ニヤピン賞よりドラコン賞の方が多い。優勝カップ40数個。

### ■社員とのコミュニケーション

後進の育成はOJTで、一人ひとりのレベルアップを図ってきた。

社員とのコミュニケーションが大切と、毎日、社長が一番遅く帰る。現場から帰ってくる社員の励みになる。

建設関係は毎月第3土曜日に、全従業員で食事会、安全の話し合いをしている。運輸関係は毎月第4土曜日に食事会をしている。

## ■今後の展望

今後も長年培ってきた経験を基に、技術・施工部門、営業部門、管理部門が一体となってこの時代を乗り越えていく。

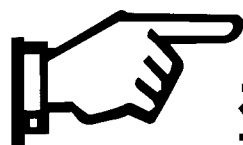
自然の改変を伴う建設工事に従事する、基礎工事專業会社として、自然と共存する姿勢を柱としている。

環境保全型技術の発展、公共事業に対するコスト削減型技

術の発展など、幅広い分野で先見性を発揮して、社会への貢献に努める。

激務ゆえ健康にはくれぐれもご留意を。

(事務局 葭田 誠作)



## わたしの履歴書

岩盤削孔技術協会 事務局長  
日本基礎技術 専務取締役 中原 巖



中原 巖 (なかはら いわお)

昭和26年9月16日 山口県生まれ  
昭和56年 日本基礎技術(株)入社  
平成18年 専務取締役に就任

### ■郷里・幼年時代・学生時代

瀬戸内海のリゾート地であった柳井、「男児立志の詩(男児志を立てて郷関を出づ…)」で有名な「月性」の出身地、柳井市遠崎で鉄工所の長男として生まれた。

家の前は瀬戸内海、台風のとときは天から潮水が降ってくる。水泳と魚釣りは大の得意。

家は貨車や新幹線の車輛部品や石灰岩を砕くハンマー部品などを作る鍛造屋。小さい頃から、昼寝、手伝い、見様見真似の鉄のおもちゃ作りなどゴォーカンカンという音と油臭い隣の工場が生活の一部。

小学生では工場での熱い製品運び、中学生では罫書きや簡単な工作、高校生のときは旋盤、シェーパー、ボール盤、溶接などの本格的な機械工作と、ものづくりの心は身に染みている。

クラブ活動は、中学ではブラスバンド部でクラリネット、トランペットの吹奏や指揮を、高校では剣道に励んで二段。

大洋底の資源開発、海底石油開発を夢見て、東海大学海洋学部に進学。大学、修上を通して通産省との海底資源調査や多くの調査航海に乗り込んだ。

コバルトブルーの海原に浮かぶ白い砂浜、緑の島が日に飛び込んできたときの感動、砂浜を歩く人を見つけたときの懐かしい嬉しさ、マーシャル諸島マジユロのさんご礁の美しさ、記憶に強く残っている。

### ■社会に出て

大学を卒業して5年間、東海大学海洋学部で教鞭をとった後、昭和56年に日本基礎技術(株)に入社。

入社以来、技術本部で小口径推進工法や永久アンカー工法の開発、施工、技術指導や大きなトラブル現場での問題解決に当たった。

平成4年、イタリア・トレビ社から芯材補強アンブレラ工法(崩壊性地山のトンネル掘削補助工法)の導入に伴い、トンネルの施工方法も知らないながら、技術習得のためイタリア・トレビ社に出張して国内展開を担当。本四架橋の本州側アプローチの大断面トンネル・舞子トンネルを始め、国内初の二階建てトンネル・圏央道青梅トンネルなど、崩壊防止、地表沈下抑制、周辺家屋へ影響抑制を目的に50件以上のトンネルで良好な適用結果を得た。その他補助工法の開発、適用に努め、トンネル補助工法の日本基礎技術としてコンサル・ゼネコンから声がかかるようになった。

その後、トンネル、アンカーの技術、営業、施工の指導をはじめ、社内の技術全般について新技術の開発を含めて、レベルアップと標準化を目指してきた。

### ■会社の歴史・経営理念

誕生:昭和28年 農業基礎土木からの出発  
転換:昭和60年 日本グラウト工業(株)〈ダムグラウティング〉と新技術開発(株)〈アンカー〉が合併して日本基礎技術(株)が発足。基礎技術総合専門会社として出発。  
発展:ドイツ・パウアー社からのBG工法導入、イタリア・トレビ社からアンブレラ工法導入等、技術を極めて新工種に挑戦

結実:平成7年、東証1部上場により堅実な企業へ進化:環境、緑化、液状化防止工法などの独自の特許工法で新世紀へ新たなるスタート

経営理念:「人と環境の共生をめざし建設基礎技術で豊かな社会創りに貢献する」

現在、基本となる「仕事のわかる社員づくり」、「コスト対応ができる人と組織づくり」を直営施工を軸に進めている。

### ■信条・趣味

信条は、「日々新たなり」「笑門来福」  
姓名学による鑑定では、「才能・人柄・生涯運・姓と名の調和」が大占。積極的な行動、先見性、明るく誠実な人柄、敏感に反応できる感性を持つ。指導者運を持ち、晩年に財力が得られる人とか。

趣味は「日曜大工」と「健康ゴルフ」。家では「直し屋」の愛称。家の補修や家庭用器具の分解修理に熱中する。ゴルフは、ドラコンよりニヤピン賞に執念を燃やす。

### ■社員とのコミュニケーション

後進の育成はOJTで、社員一人ひとりとの対話を通して、要素の洗い出し方、考え方、攻め方のレベルアップを図る。ちょっと自分のスタイルを押し付けているかもと振り返ることもある。

### ■今後の展望

これまでは山間部の工事が主流であったが、これから都市部の工事のシェアを増大する。

都市部の工事は工事条件や内容も複雑で、高い技術力や現場力が成否の鍵。要求性能を満たす施工を提供するという専門工事会社の基本姿勢が大事。

自前のデータを基にした性能発注に耐えられる技術力の整備、さらに独自の特徴ある技術開発、技術導入等による技術力の蓄積を急ぐ。

激務ゆえ、健康にはくれぐれもご留意を。

(事務局 葭田 誠作)



協会ニュース発刊にあたり、執筆者の皆様にはご多忙のところご協力頂きまして誠に有難うございました。(編集分科会)